



2022.11.30

家庭教育支援チーム

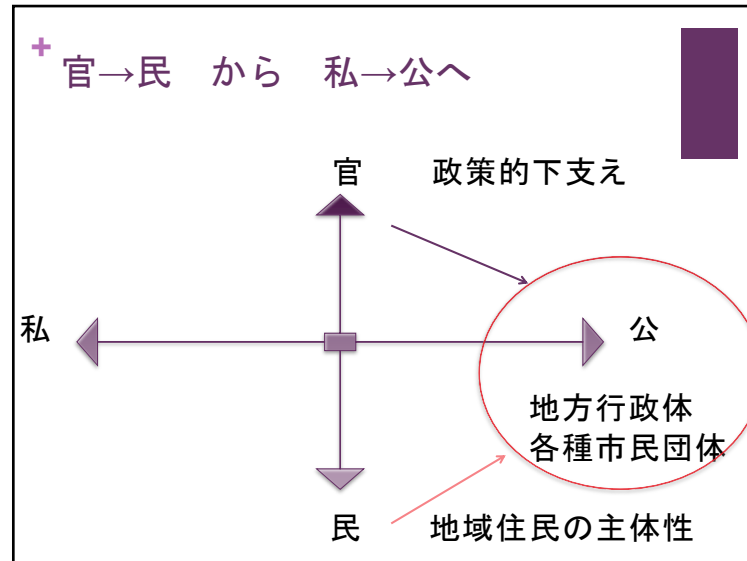
松田恵示 東京学芸大学

1

+ 「支援」という言葉について

- 指導と支援
- 特別支援
 - 「管理」に対抗する概念としての使用、
自立、自己決定
 - cf. ボランティア、NPO
- 「官/民」図式から「私/公」図式へ

2

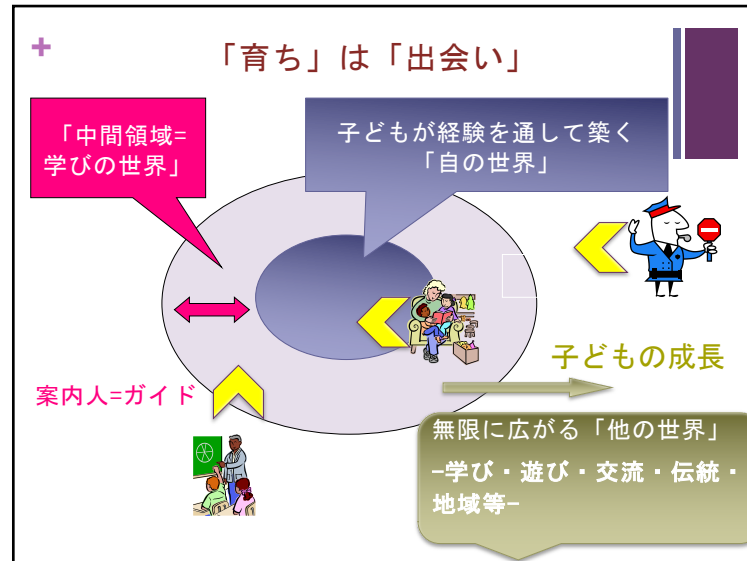


3

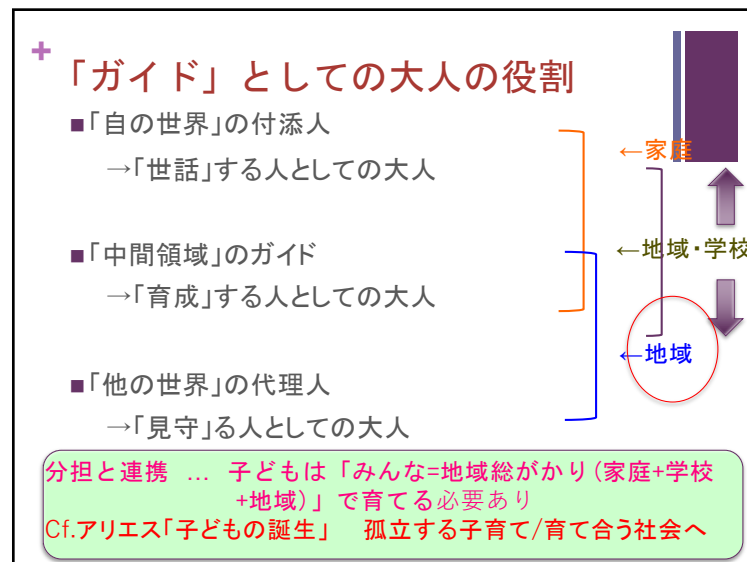
+ 「共視」 = こどもの立場を理解すること

- 「こども」を大切にすること
→ 自分から見た「こども」理解
- 「子ども」の立場を大切にすること (北山修「共視論」)
→ 「子ども」の立場に共感した「こども」理解 = **共視**
cf. 対視

4



5



6

+ ショート・ワークショップ!!!

- ここまでの感想をお隣の人に
- 時間は30秒 合図で交代!
- それでは次に

7

コミュニケーションとは?

「聞く」と「聴く」のちがい



コミュニケーションは「話す」こと
からではなく「聴く」ことから始ま
ります!!

8

+ 「きく」ということ

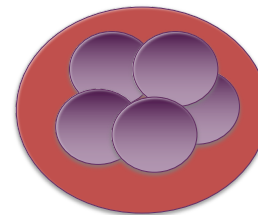
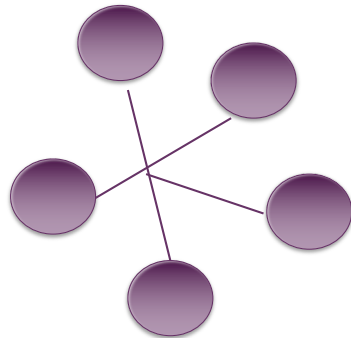
- 聞く ... 耳に感じて知る
- 訊く ... たずねる・答えを求める
- 聴く ... 傾聴する。耳に入れる

9

「弱いつながり」を大切にしよう!

チームワーク

グループワーク



弱いつながりの学習集団(協働的アプローチ)

強いつながりの学習集団(共同的アプローチ)

10

+ 地域の大人が将来の人間関係モデルに

- 社会関係の3種類
 - 「他」人 ... 「知らない」「関わらない」
 - 「他」者 ... 「知らない」「関わる」
 - 「他」己 ... 「知っている」「関わる」

「知らない」→「ルール」...「規範性」
 「関わる」→「親密さ」...「共同性」

●メディアの技術革新によるコミュニケーション構造変容など社会環境の変化大きい →他者を排除する環境へ
他者との出会いの貧困と「学びの世界」の衰退

11

+ こどもと大人はものの見方が違う！

人によって見え方が違う

同じ絵

一人一人の「頭の中」

見えない変換装置
= 「ものの見方」

男女

イルカ

12

+

教育支援者のスタンスとは？

- 子どもの成長には、「世話」「育成」「見守」の三種類の大人が必要
- それはやがて社会関係のモデルとなる
- 成長を直接支える「育成する大人」＝「他者」体験をこどもたちに豊かに与えるのが地域からの「支援」の意味
- 現代社会では、こどもたちの「育成する大人」＝「他者」体験は貧困
- 「支援者」は「近さと遠さ」の両面を同時に持つ必要がある

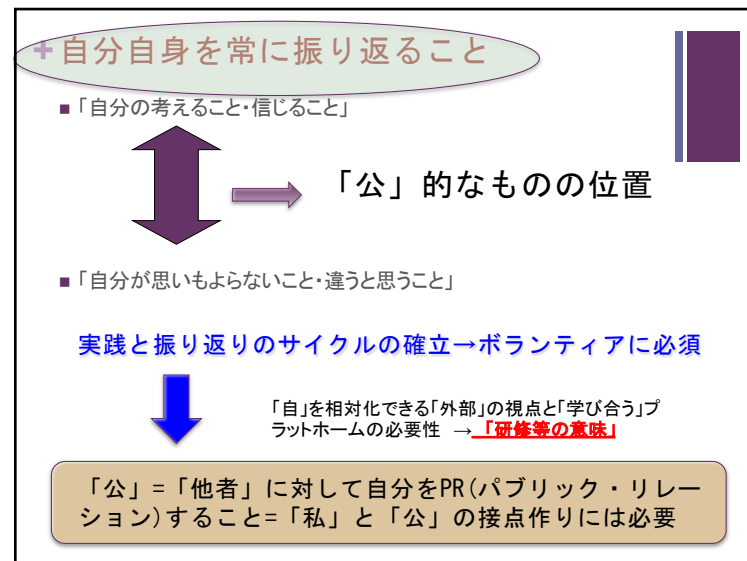
13

+

「つながり」とは「見方の違う人たちが いっしょにやっていくこと

- 教育支援における「見方の違う立場」
 - 「こどもたち」「夫婦・家族」「いっしょに行う仲間」
 - 「市・区役所の人」「保護者」「団体・組織」
- 「わかり合えない人」同士が、いっしょにやっていくこと＝「社会」
- 目標を共通に持つところからしか、コミュニケーションはとれない
- 「目標」でつながる「他者関係」＝「知らない人と近さと遠さの両面を持って、いっしょにやっていく関係」であることを自覚する
＝チームワークへ
- 「やりたいこと」と「やりたくないこと」の両面の同居
- 「ネットワークの意味と必要性」

14



15